

令和元年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会（第2回）

議事概要

1. 開催日時 令和2年2月19日（水） 13:45～14:35

2. 開催場所 東京都大島支庁 第2会議室

3. 議事

(1) 平成31年度キョン防除事業結果について

(2) 令和2年度キョン防除事業計画について

4. 出席者

■検討委員

石井 信夫	東京女子大学現代教養学部 教授
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師
小池 伸介	東京農工大学 准教授
羽澄 俊裕	環境省登録・鳥獣保護管理プランナー（欠席）
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員
松林 尚志	東京農業大学農学部 教授（欠席）
武藤 静	環境省伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

5. 議事内容

(1) 平成31年度キョン防除事業結果について

1) 平成31年度キョン防除事業実施報告（資料1-1）

- 捕獲個体がオスに偏っている。子供を産むメスの捕獲頭数を上げることが課題である。

2) モニタリング結果（資料1-2）

- 捕獲しなければその場所のキョンは増えていくと考えられる。エリアごとに捕獲と生息密度の変化を見ていくと、今後どこに捕獲圧をかけるべきかが分かるのではないかと。
- 実生は影響を受けやすい。上から写真を撮っておくなど後から確認できるようにすれば今後定量的な評価できるのではないかと。
- 全体的に下層植生の被度は低下傾向にあり、キョンの採食影響が出ていると思う。それを踏まえてこれからどう対策を取っていくかが重要である。

(2) 令和2年度キョン防除事業計画について(資料2)

- 希少植物への影響調査について、植生保護柵の設置につなげるという観点から具体的な場所の把握が必要である。
- 防除実施計画の改定については年度早い段階で論点を明確にしてもらい十分に議論したい。
- 普及啓発のパンフレットについては、状況が徐々に変わっていくので、それに応じて住民も知識をつけていけるようなものを用意できるとよい。
- パンフレットに植生モニタリングの結果を工夫して掲載し、全体的な影響を示せると理解が進むのではないか。
- 南部地域の土地使用承諾が残っているが、早急にクリアして基本的には捕獲のための作業をどこでも行えるようにしてほしい。承諾が得られない場所についても、事業の意義を説明して承諾が得られるようにしてほしい。
- 現場からの問いかけに対して、こちらからもアドバイスをしていきたい。意見交換会のような機会がますます必要になってくるだろう。
- 銃猟の出猟人日を増やすべき。柵の設置と出猟のタイミングの調整や、場所ごとの特性を踏まえ、できるだけ多くの人が出猟できるように、かつそれが有効に機能するように全体のデザインを考えてほしい。
- 捕獲効率を上げられるように、捕獲記録の分析方法を検討していきたい。